

北九州市森林組合青年部発足趣意書 ①

1980年は、世界的産業構造の発展を左右する石油の異状な高騰により、日本経済は勿論、世界の経済は全く錯乱している。国の計画経済（産業）も、あらゆる経済基盤も、そして亦、個人の文化的生活もアラブ諸国の石油価格の昇下に振り回されていると云ふのが現況であります。

特に農家経済に及ぼす影響は、著し深刻なものである。米の需給から～産米抑制になり、僅かに活を求めているトンネル栽培による蔬菜園芸も重大なる危機に直面している（資材高騰）。

この秋に當り、我々青年は、吾が祖先が孫々営々として育林に精力を傾倒して造林したその遺跡を、今こそ見直す必要があるのではないのでしょうか。石油と木材の因果関係により、輸入材は必ず高騰するであろうことは想像に堅くないと同時に、国産材の真価はこれから高く評価されるであろう。

福岡県が全国に率先して昭和54年10月1日に財団法人として発足した「福岡県水源の森基金」は、全く當を得た発想で林業行政の目玉であろう。我々は、山こそは不変の恒久的農家の資産であることを深く認識して森林の公益性を尊重するとともに、同感同志の若者の堅いスクラムを組んで、北九州市森林組合を拠点として諸政策に協合して力強く前進しようではないか。

昭和55年 3月 3日

② 昭和56年7月11日発足の規約要領部分

我国林業百年の体計を深慮し、林業の後継者は吾等であるという自覚をするとともに森林こそは、子孫に遺す最高のものであると云う信念で林業発展に邁進する。

③ 北九州市森林組合青年部会趣旨

青年部会、会員各々、経営が異なっている。そこで先ず、先進地を視察し研究する。又講習会等を開催し、技術の向上を図る。例えば、枝打ち、間伐、磨き丸太（人工絞）等、さらにモウソウ竹の利用で、角竹、紋竹、ゴマ竹等の生産、それぞれグループに分かれて研究し、産地形成することが、北九州市林業の発展、農林家経済の向上に資する。

尚、これら研究に必要であれば、青年の山造成も考えられる。

後記

現在、北九州市の林業は目的がない。しいてあると云うならば、モウソウ竹林のタケノコ生産と無節材生産のための枝打ち、前者は竹林改良事業で実施しているが、母竹の計画的整理と施肥は皆無に等しいし、後者は太い木（壮齡林）も枝打ちを行ったり、又、幼齡林、若齡林の枝打ちも技術が低いため、ボダ木が多いのではと気になる。又、造林を疎にして、生き節の多い材の生産をとも思う。今まで座談会等でも、いろいろ話題になったが、枝打ち以外は実現していない。そこで青年部会員の手で何か一つでも実現に期待する。